

## 6章 チェンマイ大学の大学間連携

### 1. チェンマイ大学の概要

チェンマイ大学は、タイで初めての地方大学として北部の中心的都市であるチェンマイに1964年に創設された国立大学である。チェンマイ大学創設の背景には、高等教育機関がバンコクに一極集中していた当時の状況に対する懸念があったという（綾部、2004）。同大学は、自然科学部、社会科学部、人文学部の3学部体制で設立されたが、設立の翌年には医学部を、さらに農学部、教育学部、工学部、歯学部、薬学部、看護学部、医療技術学部、芸術学部、獣医学部、農産学部、建築学部、経営管理学部、経済学部、法学部、政治学・公共管理学部、マスコミュニケーション学部を次々と開設してきた。現在では20学部、1つの大学院（各分野の大学院課程を統括する大学院組織）、3つの研究所を擁し、86の学士課程、26のディプロマ課程、113の修士課程、26の博士課程を27,000人以上の学生（学部レベル19,000人以上、大学院レベル8,000人以上、タイ人と留学生を含む）に対して提供しており、バンコク以外では最大規模を誇り、学術面でも高い評価を受ける、タイでも屈指の総合大学となっている。

チェンマイ大学は、「自立的で、世界規模の研究重視型高等教育機関となり、国際水準での質的な保証と学術面での卓越性を維持し、向上させること」を自らのビジョンとして掲げている。そうしたビジョンのもとに、「職業につながる知識の習得」、「高度な学問の修養」、「国民文化の保護」をスローガンとして掲げ、教育・研究・社会貢献を推進している。特に、チェンマイ大学の研究者たちによる、環境破壊や乱開発への批判や提言は活発に行われており、社会化学部や経済学部において「持続可能な開発」に関するプログラムが積極的に開設されている（綾部、2004）。

### 2. チェンマイ大学の国際交流－国際プログラム（International Programs）を中心に－

2009年2月現在、チェンマイ大学が交流協定を結んでいる高等教育機関ならびに国際機関等の組織は合計で27カ国の146機関であり、そのうちアジア・オセアニア地域の高等教育機関が83校と全体の半数以上を占めている。同地域の協定校の内訳は、日本29校、中国14校、オーストラリア12校、台湾7校、ベトナム6校、韓国3校、カンボジア2校、ラオス2校、ニュージーランド2校、インドネシア、マレーシア、フィリピン、パキスタ

ン、ネパール、スリランカ 各 1 校 となっており、特に日本の高等教育機関との活発な交流実績が際立っている<sup>12</sup>。交流協定の内容は、学術交流、論文審査委員の受入・派遣、共同研究、交換留学、教職員の受入・派遣、カリキュラム開発、会議・セミナーの共催など、多岐にわたっている。

こうした国外の高等教育機関・国際交流組織・開発援助機関などとの交流に加えて、チェンマイ大学ではキャンパス内の国際化も積極的に推し進めており、特に近年の国際化プログラム (International Programs) の拡充には目覚ましいものがある。この国際プログラムは、学長室の国際関係部の支援を受けながら各学部がそれぞれ開設している、主に留学生を対象としたプログラムであり、基本的に英語で講義を行っている。国際プログラムは、(1) トレーニング課程、(2) 大学院レベルの文化交流課程ならびに学術交流課程、(3) 学位プログラムの 3 種類から構成されている。現在では 87 の国際プログラムにおいて、28 のトレーニング課程、12 の文化交流課程、22 の学術交流課程、3 つの学士課程、9 つの修士課程、13 の博士課程を開設している。

トレーニング課程のうち 24 のプログラムが看護学部開設されており、それぞれ 2 週間から 12 週間までの期間で、HIV/AIDS 関連分野、高齢者介護分野、コミュニティ健康管理分野、女性の健康などに関するトレーニングが行われる。こうしたトレーニング課程の多くが、タイ国際開発協力事務局 (TICA)、国連人口基金 (UNFPA)、国連児童基金 (UNICEF)、国連開発計画 (UNDP)、世界保健機関 (WHO) といった国内機関・国際機関からの支援を受けている。看護学部以外の学部では、経営管理学部の財政・投資センターによる「大メコン川流域圏 (Greater Mekong Sub-region: GMS) のための財政・投資に関する国際トレーニング・プログラム」(期間: 2 週間)、教育学部による「外国語としてのタイ語認定プログラム」(期間: 1 学年度)、人文学部による「タイでの春学期プログラム」(期間: 16 週間集中コース)、「タイ語ディプロマ・トレーニング」(期間: 4 ヶ月) が開設されている。

文化交流課程とは、海外の大学からの協力を得ながら、チェンマイ大学の各学部と国際関係部が連携して開設している課程である。課程の期間は 2 週間のものから 1 学年度のものまで多様であり、基本的にタイ語やその他のアジアの言語、文化、歴史、社会などについて学ぶプログラムである。

---

<sup>12</sup> このように、チェンマイ大学は交流協定の締結などを通して日本の高等教育機関との積極的な交流を行っている。こうした交流の積み重ねにもとづき、2008 年 11 月には同大学内に「日本研究センター (Japanese Studies Center)」が開設された。今後、同センターを活用した、日本の高等教育機関との間のさらなる交流が期待される。

また、学部レベルならびに大学院レベルで開設されている学術交流課程は、アジア、ヨーロッパ、北米、オーストラリアの学術交流協定校との間での交換留学プログラムであり、それらの協定校の学生達がチェンマイ大学で多様な学問分野について学んでいる。

こうしたプログラムに加え、学位取得を目的とする外国人学生のために、学部レベルならびに大学院レベルにおける学位プログラムが開設されている。学位プログラムの特徴としては、主に自然科学系の分野で提供されていることが挙げられる。修士課程の持続可能な開発に関するプログラム (M.A. in Sustainable Development を授与)、博士課程の社会科学と経済学の2つのプログラム (Ph.D. in Social Sciences と Ph.D. in Economics を授与) 以外は、工学、看護学、ソフトウェア工学の各分野の学士号、農業システム学、環境科学、地球物理学、健康科学など9分野の修士号 (看護学の Master of Nursing Science (MNS) を除いて、いずれも M.Sc. を授与)、農学、化学、物理学、歯学、物質化学、看護学など13分野の博士号 (いずれも Ph.D. を授与) のいずれの分野も、基本的には自然科学系の学問領域において開設されている。これは、当該分野の研究を進めるうえでタイ語の習得などが必ずしも必要とされている訳ではない分野において、学位プログラムを開設していると理解できるであろう。

### 3. 社会科学・持続可能な開発のための地域センター

#### (Regional Center for Social Science and Sustainable Development: RCSD)

社会科学・持続可能な開発のための地域センター (以下、RCSD) は、1998年8月にチェンマイ大学社会科学部の附属機関として設立された。RCSDでは、次の3つのプログラムを展開している。①大学院国際プログラム、②学位取得を目的としないトレーニング・プログラム、③研究プログラム。いずれのプログラムにおいても、メコン地域における持続可能な開発についての知見を深め、研究者や学生のネットワークを構築することを目的としている。RCSDは、設立にあたりフォード財団から100万米ドルの資金援助を受けた。また、ロックフェラー財団から資金援助に基づき Program on Knowledge and Educational Enhancement in the Mekong Region (PKEEMR) が立ち上げられ、メコン地域研究を推進している。

RCSDの特徴として、社会科学の諸領域に立脚しつつ、地域における文化的な側面にも目を向けていることが挙げられる。以下、RCSDが提供するそれぞれのプログラムについて概説する。

### (1) 大学院国際プログラム (International Graduate Program)

RCSD では、主に外国人学生を対象とした大学院国際プログラムを開設している。修士課程の国際プログラムは 1999 年から開始され、博士課程の国際プログラムは 2001 年から始められている。どちらの国際プログラムにおいても、タイ人学生の登録も可能であり、特に博士課程に関してはタイ人学生が多数を占めている。修士課程の修了者には、修士号 (持続可能な開発) [M.A. in Sustainable Development]、博士課程の修了者には、博士号 (社会科学) [Ph.D. in Social Sciences] を授与している。

#### 【2008 年度までに大学院プログラムを修了した学生の出身国の内訳】

修士課程： ベトナム 14 名、中国 10 名、タイ 7 名、カンボジア 4 名  
ラオス 4 名、日本 4 名  
ミャンマー、インドネシア、スリランカ、オーストラリア、アメリカ 各 1 名  
博士課程： タイ 4 名、インドネシア 1 名、ドイツ 1 名

留学生の構成に見られるように、RCSD ではメコン地域のインドシナ諸国 (特にベトナム、ラオス、カンボジア、ミャンマー [ビルマ]) ならびに中国からの留学生を主に受け入れている。これは、以下に概説する他のプログラムでも同様の傾向が見られるが、メコン地域での学術ネットワーク構築を積極的に行おうとしている RCSD の姿勢を反映していると考えられる。

### (2) 学位取得を目的としないトレーニング・プログラム (Non-degree Training Program)

RCSD では、メコン地域の研究機関・研究者・実務家間の研究能力を向上させるために、集中的なトレーニング・プログラムを提供している。このプログラムは、各国の政府機関の行政官、NGO のスタッフ、高等教育機関の教職員、学生などを対象としており、訓練期間は数週間のものから 1 年近くにわたるものまで分野によって異なっている。このトレーニング・プログラムでは、持続可能な開発に関する諸課題について受講者の理解を深めるための講義と、自ら調査研究を行うための調査手法などについて実践的な方法論の講義が、2 本柱となっている。特に後者の方法論に関しては、実際に受講者が調査を行った後に、論文や報告書を執筆する過程における指導も行っている。さらには、国際会議などを開催することで、受講者たちが自らの研究成果について報告する機会を提供している。

これまでに RCSD が開いてきたトレーニング・ワークショップの一部を例として挙げる。

- ・ 民族学研究所（ベトナム・ハノイ）のスタッフに対する研究方法論の集中トレーニング・ワークショップ（1999年9月-11月、於・チェンマイ）
- ・ ベトナム・ハノイの3機関（民族女性支援所（TEW）、高地におけるヒューマン・エコロジー学センター（CHESH）、土着の知識・開発センター（CIRD））のスタッフたちに対する集中トレーニング・ワークショップ（2000年10月-11月、於・チェンマイ）
- ・ 雲南大学農村開発研究所のスタッフに対する研究方法論のトレーニング・ワークショップ（2000年10月、於・中国・昆明）
- ・ 中央ベトナムの若手研究者に対する研究スキル向上のためのワークショップ（2003年9月-2004年7月、ベトナム・フエ）

以上のトレーニング・ワークショップの例に見られるように、必ずしも常にチェンマイでワークショップを開催するわけではなく、必要に応じて近隣諸国に出向いてワークショップを開いていることが分かる。また、財団法人や開発援助機関などからの支援金を得て、ワークショップに参加する研究者や実務家のために奨学金を提供したりしている。

こうしたトレーニング・プログラムを修了した受講者たちのなかには、RCSDの修士課程に進学したり、さらなる海外留学に進んだりする者もいるということである。

### (3) 研究プログラム (Research)

上述の2種類の教育プログラムに加えて、RCSDでは研究プロジェクトを積極的に展開している。特にメコン地域の諸課題について、近隣諸国の高等教育機関・研究機関との国際共同研究を積極的に推進している。

これまでに実施した国際共同研究としては、American Council of Learned Society (ACLS) の支援を受けて実施した「現代世界の形成における土着の自己認識 (Vernacular Identification in Making of the Modern World)」(タイ、中国、フランス、ロシアの研究者たちが参加) や、ロックフェラー財団の支援を受けた「大メコン地域における国家間研究 (Inter-country Studies in the Greater Mekong Region)」(タイ、ベトナム、ラオス、カンボジア、ミャンマー [ビルマ] の研究者たちが参加)、同じくロックフェラー財団の支

援を受けて実施した「メコンと変化 (Mekong and Changes)」(中国の研究者たちと共同で行った大メコン地域における南北経済回廊の研究や、ベトナムの研究者達と行ったメコンデルタの生態系の変化と文化面の変容に関する研究などを含む) を挙げるができる。

ここで概観した RCSD が提供する 3つのプログラムは、近隣諸国の研究者・実務家たちに学位取得や研修の機会を提供したり、研究費が不足して満足に研究活動を行うことができない研究者たちに研究の機会を提供したりすることを通じて、結果としてチェンマイ大学を核とする研究者・実務家たちのサブ地域的なネットワークを構築することに成功していると言えるであろう。さらには、この地域に関心を有する域外の研究者たちも国際共同研究に巻き込むことによって、ネットワークが広がりつつある様子を窺い知ることができる。

#### 4. ラオス国立大学との共同修士学位プログラム

2008年10月に、チェンマイ大学のイニシアティブにより、ラオス国立大学 (National University of Laos) との共同修士学位プログラム「Master of Arts in International Development Studies」が立ち上げられた。本プログラムは、メコン川流域における経済開発に伴う政治的・社会的変化に呼応して立案されたプログラムで、同地域におけるグローバル市場経済の進展にはどのような利点や弊害が生じるのかを、学問的に研究することを主たる目的としている。また、同時に、同地域における最貧国であるラオスの高等教育の強化と人材育成も強く意識されている。そのため、パートナー大学であるラオス国立大学にチェンマイ大学の持つ知見・経験を伝えることを目指している。さらに、この共同修士学位プログラムの対象者はメコン川流域諸国の出身者であるが、特にラオス人学生の参加を強く促している。

このプログラムは学際的であり、使用言語は英語である。プログラム全体は18ヶ月間(3学期)で構成されており、初めの1学期をチェンマイ大学で、残りの2学期をラオス国立大学で学ぶ。本プログラムは、中堅 NGO 職員や公務員、ジャーナリストなど、将来国際開発分野において第一線での活躍が期待されている若手実力者や、引き続き後期博士課程での研究を希望する若手研究者の育成を目的としている。

同プログラムでは、座学のみで知識を身に付けるのではなく、「開発」という名のもとに現実社会では何が起きているのか、また地域政府はどのように対応しているのか等、実際

にコミュニティへと出向いて観察や分析を行う。このような生きた現状と学問的な知識を結びつけることが、本プログラムの特徴である。

この共同修士学位プログラムは、日本の東京財団によるヤングリーダー奨学基金の財政支援を受けて運営されている。

## 5. 結び

本稿で概観したように、チェンマイ大学はタイの代表的な地方大学として、その地の利を活かしながらメコン地域における高等教育機関・研究機関の間の連携フレームワークを構築していると言えるだろう。また、この地域で活発な交流を展開することによって、日本をはじめとする域外の高等教育機関や研究機関も、今後さらにチェンマイ大学との連携を図ることが予想される。そうした意味では、メコン地域というサブ地域（＝数カ国の繋がりに）の中での連携・交流のネットワークを強化することが、ひいては域外との連携・交流の広がりにつながっていくことになると言えるであろう。

従って、今後のアジアにおける高等教育機関の地域連携フレームワークを考える上で、こうしたサブ地域における連携・交流の位置づけを考えていくことが欠かせないことを指摘して、本稿の結びとしたい。

### 【参考文献】

Chiang Mai University Brochure

綾部真雄（2004）「チェンマイ大学」『タイを知るための60章』明石書店

### 【参考ウェブサイト】

チェンマイ大学国際プログラム (International Programs) [<http://inter.oop.cmu.ac.th>] (学長室国際関係部のウェブサイト)

チェンマイ大学社会科学・持続可能な開発のための地域センター (Regional Center for Social Science and Sustainable Development: RCSD)

[ウェブサイト：<http://rcsd.soc.cmu.ac.th/>]

東京財団・チェンマイ大学ーラオス国立大学共同修士学位プログラム

[<http://www.tkfd.or.jp/fellowship/news.php?id=25>]